

第 1 回多治見市事業評価委員会 会議録	
日 時	令和 3 年 7 月 6 日（火）午前 10 時 00 分～午前 12 時 00 分
会 場	多治見市役所本庁舎 4 階会議室
出席委員	菊地委員（会長）、鈴木委員（副会長）、井奈波委員、川瀬委員、隈元委員、佐伯委員、佐藤委員、城下委員、花山委員、堀尾委員
欠席委員	なし
事 務 局	仙石企画部長、伊藤企画防災課長、皆元課長代理、細江主査、安田主査
傍 聴 人	0 名
報道機関	0 社
会議録要旨	
1	企画部長挨拶
2	委員紹介
3	会長・副会長の選任
4	情報公開の決定
5	議題（１）第 7 次総合計画基本計画事業の評価について 会長 第 7 次総合計画基本計画事業の評価について、資料 2，3 に基づき事務局から説明いただく。 事務局 （第 7 次総合計画基本計画事業の評価について説明） 第 7 次総合計画は全 181 事業があり、各事業に KPI（重要成果指標）を設定している。令和 2 年度において、122 事業（68％）が目標達成、58 事業（32％）が未達成、1 事業が評価非該当となった。6 つの政策の柱ごとの評価内訳は、資料 2 内表のとおり。 （資料 2，3 に沿って、目標達成となった主要 15 事業について説明） 基本計画事業コード：104140、105050、201040、204030、302025、304010、40170、403020、405110、410030、413030、501050、502050、602050、603010 （資料 2，3 に沿って、目標未達成となった主要 9 事業について説明） 基本計画事業コード：103020、104070、201010、203060、305010、411010、411020、502020、603030 （新型コロナウイルスの影響を受けた一部事業について説明） 基本計画事業コード：203060、603010、603030 会長 ただいまの事務局からの説明について、委員の皆さんからご質問やご意見をいただきたい。 委員 各事業の進捗は概ね理解できる。例えば、道路整備については、計画どおりできた

かどうかのアウトプット指標であるが、事業実施による交通事故の減少や渋滞の緩和などを数値で把握されているか。評価として、事業実施の有無だけでなく、その先の影響を見据えたものであるとより良いと考える。

事務局 総合計画では、政策の柱、施策、基本計画事業の3体系をとっており、本資料は基本計画事業の評価である。道路整備の例では、政策的に各道路を整備する基本計画事業の先に、交通事故の減少や渋滞の緩和などの大きな視点に繋がると認識している。本評価においては、切り分けて管理しており、交通事故や渋滞に関する評価は担当課が総計期間全体で行っていくものとする。

委員 AEDについても、設置することが目的ではなく、実際に活用し人命救助することが目的である。設定指標の話ではあるが、設置されたAEDの活用件数などが本質的に求められる。

事務局 AEDの例であれば、基本計画事業では、政策的に市が設置・更新し、有事の際に活用できる体制を整備するものである。単年の評価としては、AEDの入替数を基準とし、人命救助等の視点は長期での評価と考えている。

会長 基本計画事業の指標として、ふさわしいかどうかという観点であり、そこについても議論されたい。

委員 あいのりタクシーに関連して、市之倉地区では、区単独事業のコミュニティバスがある。NPOの設立などにより自治会の活動は広がりを見せるが、必要な届出等が適正に行われているかは未だ不安が残る。市から自治会や団体へ支援をいただき、その実績を指標の1つに取り入れてみてはどうか。また、本庁舎移転について賛成であり、適切な場所、人員で市政運営を行うことが必要と考える。一方で、本庁舎移転が川南地区の存続に関わるため、現庁舎の跡地活用について高度利用が求められる。

事務局 交通施策について、市民の移動手段の確保は大きな課題である。いただいたご意見を担当課に伝え、今後も市民ニーズを捉えた事業を展開する。また、本庁舎移転に係る跡地活用については、養正地区で発足した自発的な団体や市民委員会にもご意見をいただき検討を進める。

委員 指標にあるNPOの団体数について、わずか1団体が及ばず目標未達成となっているが、詳しくは解散によるものである。NPOの性質として、目的を達成すると解散することとなっており、ポジティブな解散とも受け取れる。以上からNPO団体数は、指標として扱いが難しい面があると感じる。

事務局 NPO等の活動は、地域力の観点から積極的に連携・支援を行う。NPO団体の解散経緯を把握できていないが、指標の取り扱い、あくまで目安として活用している。

委員 福祉・子育て分野などの対人支援を行う事業において、指標に「参加人数」等を設定すると、数値目標に視点が行きがちとなり、サービスの本質を誤認識してしまう。事業の性質によりケースバイケースであるが、現場での取組は数値では一概に表しがたい。

事務局 指標の数値目標については、福祉分野のみならず、教育現場等でも同じことが言える。単年度評価では数値により行っているが、長期的な物差しとしてより良い指標を模索したい。また、数値のみでなく事業の中身で評価する視点を持って進めていく。

- 委員 事業の性質により数値化できない場合、指標はアウトプットだけでなく、「現場の声」等を記載しても良いのではないかと。見せ方の問題ではあるが、実行計画においては、よりハートフルな表記を求めたい。
- 事務局 市民に公表する資料において、表現方法については課題と感じている。市民に分かりやすい表現ができるよう努めていきたい。
- 委員 移住定住施策について、指標の各種移住補助制度利用者とは、制度を利用し実際に移住した数値か。
- 事務局 利用制度を活用され、実際に移住した件数である。
- 委員 市内企業への就職を機に移住した場合、補助金等の経済的支援が受けられるのか。
- 事務局 企業誘致関連の制度で、特定の企業への就職を機に移住した場合は、条件を満たせば補助の対象となりうる。補助対象は、雇用した企業となる場合もある。
- 委員 戸別受信機の配備数やセラミックバレーのロゴ申請件数の目標数値は、各年の新規件数を指すか、通年での合計件数を指すか。セラミックバレーのロゴ申請については、誰を対象としているか。
- 事務局 それぞれ各年の新規目標件数である。セラミックバレーのロゴ申請は、市だけでなく、市内事業者、関係団体向けに使用を促し、周知活動を行っている。民間が主催するイベント、ポスター掲示などで積極的に活用いただき引き続き地域ブランドとして展開したい。
- 委員 セラミックバレーのロゴ申請は、実績値以上にあると感じる。乗用車へのマグネット貼付等街中でよく見かける。申請はどのような単位で計算しているか。
- 事務局 例えば、乗用車へのマグネット掲示では、当初に配布した市内関係事業者については、1台あたり1件というカウントはしていない。その後のマグネット販売や各種イベントでの申請を1件としてカウントし、最終的に10件の申請があった。
- 委員 事業評価の話ではないが、各分野の視点を持った委員がより意見交換しやすくするため、事業一覧の作成や資料間のリンク付等をしていただけると良い。
- 事務局 今後、ご意見を参考に資料を作成していく。

5 議題（2）第8次行政改革大綱（H29～R2）の総括について

- 会長 第8次行政改革大綱の総括について、資料3、4に基づき、事務局より説明をいただき、その後議論したい。
- 事務局 （資料4、5に沿って議題について説明）
- 総合計画の着実な実行・実現のため、経費削減・収入確保として行政改革に取り組んでいる。令和2年度で終了した第8次行政改革大綱の総括を報告する。全73事業のうち49事業（67.1%）が完了、24事業（32.9%）が9次行革へ引き継ぐこととなった。事業の詳細は資料4内表のとおり。
- （令和2年度に完了（期待以下及び検討終了）した事業について説明）
- 事業 No.41、57
- （経費削減及び収入増加の成果について説明）

「行政サービスの見直し」では、4年間の削減目標額△200,000千円に対して、実績は△334,975千円となった。「新たな収入確保」では、4年間の収入増加目標額20,000千円に対して、38,557千円となり、いずれも目標を達成。主な削減内容、収入内容は資料4内表のとおり。

会長 ただいまの事務局からの説明について、委員の皆さんからご質問やご意見をいただきたい。

委員 行政改革においても、新型コロナウイルスの影響を少なからず受けていると考えられる。経費削減や収入確保において、事業に与える影響ははっきりとは分らない。

事務局 市民の幸せ達成のために総合計画の着実な実行・実現し、市民サービスの低下をできるだけ生じないよう事業の見直し等に継続して取り組んでいく。

会長 これをもってすべての議題が終了したため、進行を事務局にお返しする。

事務局 引き続き委員の皆様には、随時ご意見をいただくようお願いする。これで第1回事業評価委員会を終了する。

<会議終了>